

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- ◆私たちの探鳥会自慢
「明治神宮探鳥会が 800 回を迎えました」・・・・・・・・・・ 1
- ◆トコロジストになろう
「田舎暮らしとトコロジスト」・・・・・・・・・・ 3
- ◆マナー問題の事例
「北海道根室市のチシマウガラスの例」・・ 5
- ◆元祖お試し入会制度「むくどり会員」・・ 6
- ◆探鳥会スタッフ通信～支部と財団をつなぐ
コミュニケーションツールを目指して～・・ 8
- ◆探鳥会保険集計結果
(2014年6月分)・・・・・・・・・・ 10
- ◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・ 12
 - ・探鳥会保険申請の締め切りは、毎月 15 日です
 - ・平成 26 年度「探鳥会保険のご案内」をお送りいたします
 - ・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み
- ◆今月の購読者数・・・・・・・・・・ 14
- ◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・ 15
- ◆編集後記・・・・・・・・・・ 15

◆私たちの探鳥会自慢

5月号で開催案内をいただいた、日本野鳥の会東京の「明治神宮探鳥会800回記念例会」について、明治神宮探鳥会担当幹事の糸嶺さんからご報告をいただきました。

「明治神宮探鳥会が 800 回を迎えました」

日本野鳥の会東京主催の定例明治神宮探鳥会が今年の6月で800回になりました。この記念行事として、明治神宮社務所の講堂をお借りして室内例会「靱山徳太郎（もみやまとくたろう）とその時代～1950年代黎明期の野鳥の会東京と研究者たち～」という講演会を行いましたので、報告させていただきます。

■講演会の概要

明治神宮探鳥会は、戦争のため休止していた日本野鳥の会が活動を再開し、東京支部を作った（と言っても支部長は中西悟堂が兼務）1947（昭和 22）年に、全国でも唯一の月例の探鳥会としてスタートしました。最初期に講師役をしていたのが靱山徳太郎で、「支部報もまだ発行していない時だから、今のうちにこの頃の事を振り返っておかないと何もわからな

くなる」との思いのもと、記念講演会のテーマを決めました。



▲講演会の様子

講演会では、山階鳥研から自然史研究室の平岡考、元支部長で中西悟堂研究家の西村眞一、

探鳥会を長年一緒に担当している小泉伸夫に講師をお願いし、鳥類学者靱山徳太郎の紹介、中西悟堂とのつながり、そして、靱山徳太郎から現在までの探鳥会とリーダーの移り変わりをたどってみました。靱山徳太郎は山階鳥研の鳥類標本のうち 14,500 点も収集した人物ですし、これ以外にもアメリカ自然史博物館に売却された標本も多数あります。この時代の著名な研究者の一人と言っても良いのに、評伝はほとんどない謎の人物でした。

平岡考には、これを山階芳麿と高島春雄による追悼文から解き明かしてもらいました。(学名のミニ知識なども得られました。) この時代は双眼鏡なども普及しておらず、鳥を詳しく調べるためには採集が欠かせなかった、などというくぐり隔世の感があります。

西村眞一には、1934 (昭和 9) 年の野鳥の会立ち上げの頃から神宮探鳥会 100 回の頃までを中心に、そのころの悟堂会長の動静や野鳥の会を彩る先人たちのお話などを、時代背景を絡めて話していただきました。100 回記念探鳥会に参加された方も一緒に来てくださり、担当一同感激しました。

「日本野鳥の会」よりも前に「日本鳥の会」があったこと(飼い鳥の会だったそうです)、野鳥ガイド(中西悟堂著)から鳴声のカタカナ表記が始まったこと等々へえーの話が次から次へと飛び出してきました。

第 3 部担当の小泉伸夫は神宮担当 3 代目というリーダーです。祖父の小泉吉之助は、裏方担当の世話役を務め、探鳥会初期は靱山～小泉体制で運営されました。

明治神宮が最初の定例探鳥地になったのは、鳥学会理事でもある、鳥の公爵と呼ばれた鷹司信輔公爵が明治神宮の宮司を務めていたことも要因だったようです。

第 100 回の記念探鳥会では鷹司宮司からお話を伺うこともできたようです。この頃まではまだ鳥類学は貴族や殿様、文化人が主体の趣味という性格が強かったようですが、戦後 10 年もたったあたりから、どんどん変わってきたようです。

■明治神宮探鳥会を支えてきた人たち

明治神宮探鳥会は 800 か月=66 年半、毎月第 3 日曜日の朝、北参道の鳥居前集合で続い

てきましたが、担当リーダーが不在になった空白期を 2 回経験しています。最初は靱山と小泉吉之助が病気で退いた 1957 年から 64 年頃まで。この時は最初参加者はいるのに担当が誰も来ない、なんてことさえあったらしいのですが、以後支部の幹事などが交代で担当し、廃止にならずに済みました。担当には塚本洋三・岡田泰明・蓮尾嘉彪・高野伸二・蒲谷鶴彦などの名前が並んでいます。

次の 64 年から 70 年代初めの安定期は小泉睦男、引頭百合太郎体制。もともと明治神宮探鳥会では野鳥だけでなく、植物や昆虫も観察する傾向があったのですが、この時期に「鳥だけでなく自然全体を観察する」という明治神宮探鳥会のスタイルが確立しています。

70 年代前半に小泉睦男、引頭百合太郎が出られなくなってからが 2 回目の担当不在期。この時も多くは今も活躍する東京支部の名物幹事たちが支えました。そして 75 年から藤本和典が担当につくと安西英明、中村文夫、八木光裕などの若手実力派を次々に担当に加えました。この時は「バードウォッチングブーム」で探鳥会参加者も 200 名超はざら、という恐ろしい時代で、担当も学生幹事など約 10 人でこなしたものです。郷里に帰って、地元で活躍している狩野清貴のようなメンバーもいます。小泉伸夫も私もこのあたりから担当になったので、30 年超担当を続けていることとなります。

■1000 回目の探鳥会を目指して

明治神宮は人工の鎮守の森ながら 100 年近い年月を経て、豊かな環境が作られてきました。その間、森の変遷に合わせて、野鳥も変遷してきました。探鳥会を続けて出現鳥類をメモしただけの記録であっても昨年神宮が実施した「境内総合調査」のデータなどに生かされています。多くの参加者とリーダー、そして神宮の適切な森の管理があったことで、探鳥会は 800 回続けられました。800 回の中で同じ探鳥会は 1 度も無かった。これからも歴史はあるが、中身は常に新しい観察会をめざして、900 回、1000 回の探鳥会へとつないでいきたいと担当一同思っています。【文中敬称略】

(日本野鳥の会東京 明治神宮探鳥会担当幹事
／糸嶺篤人)

◆トコロジストになろう

第5回「田舎暮らしとトコロジスト」

小学校四年生の時に野鳥の会の会員になり、大人になっても野鳥好きのまま気がつけば二人の子の母親になりました。住んでいる所は佐賀県鹿島市です。有明海のそばの自然豊かなところで、干潟に行けばムツゴロウがピョンピョン跳ね、春の渡りのシーズンには毎日千羽以上のチュウシャクシギの群れが有明海を飛び姿が見られます。

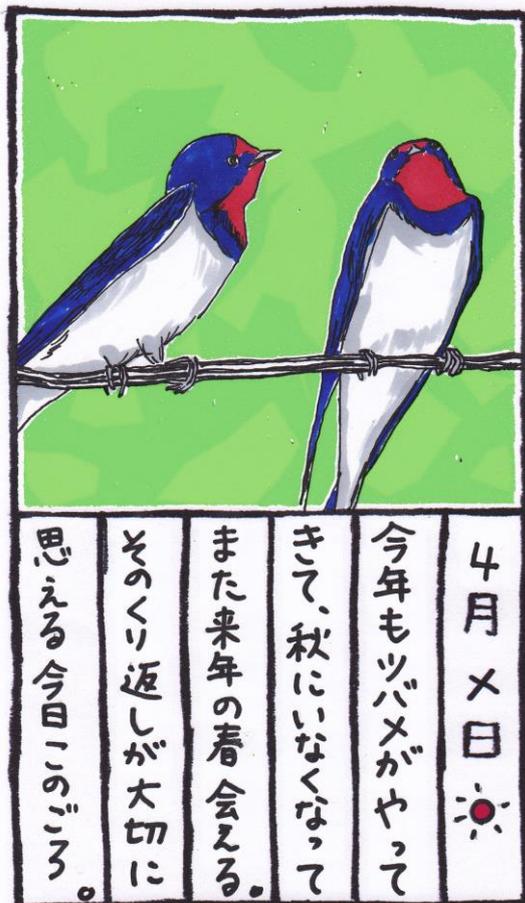
私は子供の時は父の仕事の都合で転勤が多く、都会のマンション暮らしで、同じところに長く住んだ経験がありません。なので田舎で暮らすことに憧れがありました。

子供の小学校入学を機に山裾の古い一軒家に引越し、なるべく自給自足をしたかったので野菜を作ったり、米を作ってみたりしています。田んぼは一反ほどなので家族四人の食い扶持は半年も持ちませんが無農薬で作るご飯の味は、米作りの苦勞も吹っ飛び美味しさです。

こんな風に家族総出で田舎暮らしをしていると、生きるため、怪我をしないため、最小限の労力で最大の成果を上げるため(?)必然的に自然を学ばねばならず、必然的にトコロジストにならざるを得ないような気がします。

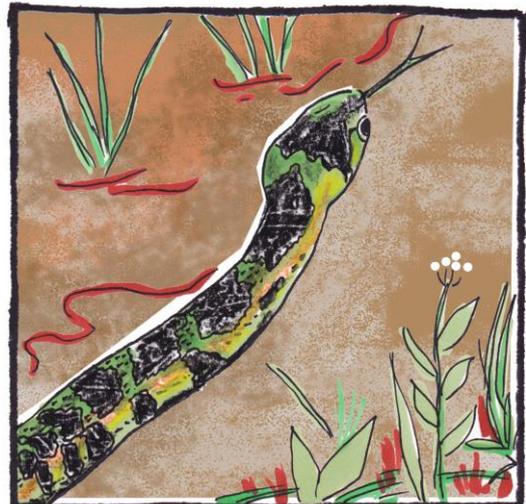
元々、鳥好きではありましたが最近植物や昆虫も面白いと思うようになり、全ての生き物の要素が繋がって人間が知らないところで色々な事が起きているのだなああと毎日が発見の連続です。子供たちには世界は人間だけではないということはこの暮らしから学んでほしいと願っています。それさえ分かれば大丈夫。そう信じています。

(佐賀県支部/中村さやか)





7月×日 ☁️
 田植えをしていたら
 セセ(ゴヨ)にかまれ
 痛いやら、かゆいやら
 で大変でした。おしい
 お米に育ってね。



7月×日 ☀️
 無農薬の米作りも
 三年目になり、もう
 誰もヤマカガシ程度
 には、びっくりしなく
 なったのだった…。



8月×日
 夜、網戸にカブトムシ
 とクワガタがくっついて
 はなれない。苦労して
 採集しに行くもんじや
 ないのか…？



2月×日 ☁️
 ぬか床作りに挑戦
 はじめに、かつおぶしや
 こんぶ等を入れるらしい
 けど、切らしていたので、
 乾燥ワラスボを入れた。

◆マナー問題の事例

「北海道根室市のチシマウガラスの例」

【キーワード】マナー違反、インターネット、行政とのコミュニケーション

2010年2月以降に（営巣確認は2010年4月頃）、北海道根室市の納沙布岬において、チシマウガラスの繁殖地で発生した事例をご紹介します。

本土最東端の納沙布岬には、チシマウガラスの繁殖する崖があります（現在は繁殖していません）。この場所の手前には、柵が設置されていますが、またいで中に入ることも可能ですし、柵の切れ目から入ることもできます。

インターネット等で、チシマウガラスの写真が掲載されたため、営巣場所に撮影者が柵を越えて侵入し、接近してしまっていました。中には、レフ版を使って撮影する者までいたとのことでした。

このような状況となったため、根室市に対し、立入禁止の措置を取るよう、日本野鳥の会根室支部から支部長名で申し入れを行いました。

根室市は、崖への接近は危険であることに加え、チシマウガラスの繁殖地に近づきすぎないように、柵の手前に一部ロープを設置し、立入禁止の看板を設置する措置をとりました。

行政から見ると、保護団体は厄介者と思われることが多いと思えますが、行政の行う観光イベントや自然観察会等に積極的に協力していく中で、行政との連絡とコミュニケーションを密にしておくことが重要です。合わせて、野鳥撮影や観察を目的とした観光客を呼び込むには、保護活動を進めることや、行き過ぎる行為を抑制する必要があることを理解してもらう努力を惜しまないことです。

この発端は、柵を越えて撮影や観察をするマナー違反。その情報や写真がインターネットに流れ、撮影者や観察者が増加したことで、大きな問題になってきたものと思われます。少なくとも、ネットには詳しい撮影場所を明記せず、できるだけ撮影場所が分からない写真を掲載するべきだと考えます。

この事例のポイントは、根室市と日本野鳥の会根室支部の日ごろからのお付き合いが、功を奏したということだと思います。本来、マナーが守られていれば発生しなかった問題ですが、発生後も適切に対処できた良い事例だと思います。

迷惑問題が発生している事例はたくさんありますが、上手く解決できた事例は、意外と少ないようです。

本連載は、ここで一度終了とさせていただきますが、引き続き、支部の皆さんから事例を募集して随時掲載していきたいと思っています。

ぜひ、良い事例があれば、「撮影マナーに関する事例」と明記の上、①いつ②どこで③誰が④どのような状況を解決したかを記入し、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

お電話で取材させていただき、こちらでまとめることも可能です。

よろしく申し上げます。

（普及室／富岡辰先）

◆元祖お試し入会制度「むくどり会員」

先月7月号で2013年度の報告をしました「協働探鳥会」は、今年度「会員を増やすための探鳥会」として、関東ブロック所属の8支部と開催することになりました。この探鳥会では、各支部が独自に作っている、お試し入会制度が基本となっています。

そこで今回は、既に7年前からお試し入会制度を運用していた大阪支部にお話を聞きました。8月3日、大阪支部事務所での取材に応じてくださったのは、大阪支部の平軍二さん、納家仁さん、上村賢さん、中島久典さんです。

■経緯

現在、ピーク時には約3000人いた会員がどんどん減り続け、三分の二の2000人程になっています。減少が著しくなってきた2008年の総会で、規約を改正し、準会員制度（お試し入会制度）を作りました。準会員は「むくどり会員」の愛称で呼ばれています。支部報「むくどり通信」には2008年の11月号に初めて案内が載りました。

■制度の仕組み

年会費1000円で、1年間の会員になれる制度です。特典として、2ヶ月に1回発行しているむくどり通信を年6回送付します。入会方法はその場で名前を書いていただき、お金をいただいて、登録するという手軽なものです。6冊目のむくどり通信を送るときに、手紙を入れて、正会員への移行を促しています。

支部の探鳥会全てと、大阪自然史フェスティバル（※1）など支部が出展するイベントなどで随時受け付けています。探鳥会には毎回2、3名ずつ新しい人が来ます。新しく来た人には、むくどり会員について説明して、むくどり通信と入会申し込み書をお渡ししてお誘いしています。

（※1）大阪市立自然史博物館が開催するイベント。三年に一度はテーマを鳥に絞った「大阪バードフェスティバル」も開催される。

■実績

むくどり会員の人数は、常に100名前後をキープしている状態です。昨年の例では、その内の約40名が正会員へ移行しました。

大阪支部では、定例探鳥会20ヵ所に加えて、それ以外の一般探鳥会の企画も多くあります。いろんな探鳥会に参加して参加回数を増やす

人が多いということも、正会員に移行していただく上で良い方に働いているかもしれません。探鳥会への参加回数が多ければ多いほど正会員になってくださる傾向があります。参加費が、一般は200円、むくどり会員や正会員は100円と異なるので、お得ですし、多く参加すると元が取れると考えるのかもしれませんが。



▲「むくどり通信」の表紙（2014年7月号）

■利用者

むくどり会員になってくださる方で一番多いのは、幹事の知り合いやリーダーの知り合いなどです。友達が友達を呼ぶ口コミが強いです。年齢層で言えば50代、60代だけでなく20

代、30代の若手の方が入ることもありますし、幅広いです。

以前に数十年間会員だった方が、辞められて、何年間か間を置いてまた会に入ろうかなという時にむくどり会員で入るケースや、ファミリーネイチャークラブ バーディ（※2）に参加されたお子さんや親御さんがむくどり会員になるケースなどもあります。

（※2）大阪支部が2008年から幼児・小中学生とその家族を主な対象とし、毎月開催しているイベント。

■今後の展望

探鳥会の中で、新しく来た人を勧誘するときに、むくどり会員制度があると話がしやすいです。「1年間1000円でお試し入会できますよ」というのと、「会員になってくれませんか、年

間費用3500円（※3）です」というのでは全然違います。説明もしやすいので、幹事も頑張っ

て声をかけてくれています。
（※3）大阪支部会費2500円+赤い鳥本部会費1000円

むくどり会員は随時受け付けていますので、管理は大変と言えば大変ですが、むくどり会員から正会員になる方がいるので、今何とか2000人の会員数をキープできています。むくどり会員制度が無ければ、減る一方になってしまいますので、効果は高いと思っています。2000人を割りこむことがないように現状維持、願わくは右肩上がりを目指して続けていきたいです。

（まとめ：普及室／堀本理華）

「むくどり会員」入会申し込み書

会費（1,000円）を添えて下記のとおり入会を申し込みします。

記

月 日：平成 年 月 日

郵便番号：〒

住 所： _____

氏 名： _____

電話番号： _____

その他： _____

（申し込み書受領者所属・氏名： _____）

-----き-----り-----と-----り-----せ-----ん-----

むくどり会費受領書

標記について下記のとおり受領致しました。

記

受領月日：平成 年 月 日

受領金額：¥1,000円

受領者所属：日本野鳥の会大阪支部

受領者氏名： _____

※ 金額を修正したり、受領者の所属や氏名が記載されていないものは無効です。

むくどり会員とは、1年間限定の準会員制度です。

1年が経過しますと、正会員として会員登録を継続していただけます。（正会員制度につきましては、別途ご案内させていただきます。）なお、正会員を希望されない場合には、自動的に脱会となります。

日本野鳥の会大阪支部 TEL(06)6766-0055 FAX(06)6766-0056

開館日：毎週 火曜日・金曜日（祝日は休館）

▲「むくどり会員」入会申し込み書

◆探鳥会スタッフ通信～支部と財団をつなぐコミュニケーションツールを目指して～

6月29日に埼玉の総会にて、探鳥会スタッフ通信についてお話する機会をいただき、通信の発行状況や役割について考察しました。ここにその内容を紹介させていただきます。



▲埼玉総会での講演の様子

■発行の経緯

「探鳥会スタッフ通信」は、当会創立80周年を機に探鳥会の意義やあり方を見直していることと2013年4月に創刊されました。現場の探鳥会リーダーに届くよう、探鳥会リーダーへのメールによる発行を基本とし、メールを使わない方に向けたものとして、支部事務局にも紙媒体で2部お送りしています。発行は毎月1回、この8月で17号目になります。

■登録者数、登録方法

メール版の購読者数は、8月6日現在で773名です。メーリングリストでの登録をいただいた支部も12支部あり、創刊時の129名から比べると登録者数は大きく増えました。

一方、まだメール版の登録者が1人もいない支部も9支部あります。メール版は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記し、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入しtanchu-staff@wbsj.orgへお送りいただくことで登録ができます。まだの方はこの機会にぜひ登録いただければと思います。

■連載内容

2013年度は、どこの支部の方がどのような情報を持っているのかもあまり分かっておらず、財団の情報が中心の連載になっていました（図1の青の枠）。連載には、安西主席研究員が探鳥会の歴史などについて紹介する「安西英

明の探鳥会講座」、佐藤理事長が野外における危険生物を紹介する「探鳥会リスクマネジメント」、私が東京近郊の支部を訪問して探鳥会を紹介する「探鳥会訪問記」、支部ごとの探鳥会保険申請人数を公開する「探鳥会保険集計結果」、普及室の事業を紹介する「普及室からのお知らせ」がありました。

2014年度は、新たな連載も始め、支部の情報を中心の通信になってきました（図1の赤枠）。連載には、支部からの投稿により探鳥会の紹介をする「私たちの探鳥会自慢」、昨年度よりも訪問範囲を広げて続けている「探鳥会訪問記」、支部で活動する様々なトコロジストを紹介する「トコロジストになろう」、撮影マナー問題の対応事例について紹介する「マナー問題の事例」、昨年度から継続の「探鳥会保険集計結果」、通信のメール版の登録者数を公開する「今月の登録者数」、同じく昨年度から継続の「普及室からのお知らせ」があります。

2013年度の連載内容	2014年度の連載内容
・安西英明の探鳥会講座	・私たちの探鳥会自慢
・探鳥会のリスクマネジメント講座	・探鳥会訪問記
・探鳥会訪問記	・トコロジストになろう
・探鳥会保険集計結果	・マナー問題の事例
・普及室からのお知らせ	・探鳥会保険集計結果
	・今月の登録者数
	・普及室からのお知らせ

▲図1) 2013年度と2014年度の連載内容（青枠：財団の情報、赤枠：支部の情報）

■支部からの反響

発行を開始してみると、支部の探鳥会リーダーから様々な反響をいただきました。

取材先の東京や神奈川支部からは、「探鳥会訪問記では、探鳥会参加者の感想が知れるので嬉しい」という感想。

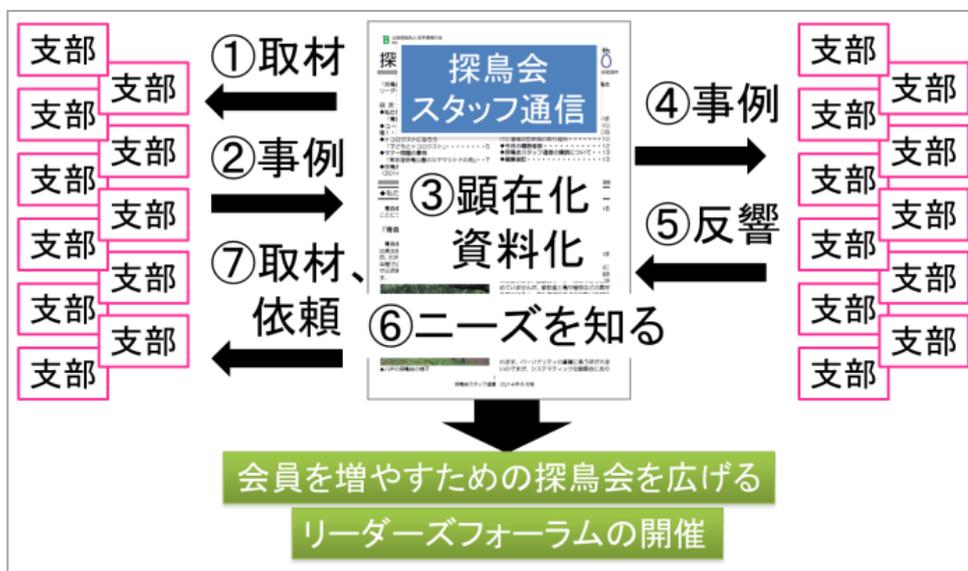
愛知県支部からは、「探鳥会保険集計結果から、他支部と比べて、非会員の参加者割合が高いことが判明した。入会促進に役立てたい」という報告。

また、滋賀から、「探鳥会での初参加者への対応について知りたい」というメールをいただいたときには、通信を使って意見を募集しました。その結果、神奈川支部、愛知県支部、埼玉、東京から事例をいただき、通信で紹介しました。

他にも、東京の「Young 探鳥会」の話を掲載したときには、それが1つのきっかけとなって、栃木で「コース観察会」が開催されたり、オホーツク支部の「女子探鳥会」の記事を掲載したときには、それを読んだ宮崎県支部の女性副支部長が「女子会バードウォッチング」を開催したりという広がりも生まれてきました。

■支部と財団をつなぐコミュニケーションツールへ

探鳥会スタッフ通信がどのようなサイクル



▲図2) 探鳥会スタッフ通信のサイクル

■まとめ

昨年4月、財団事務局に入ると同時に担当することになった探鳥会スタッフ通信の編集の仕事。支部のことも探鳥会のことも初めてで、探鳥会リーダーに役立つ情報を発信できるのかという不安とともに始めた通信でした。

しかし、発行を続けていると、支部の方から反響のメールをいただいたり、探鳥会でお会いしたときに声をかけていただいたりするようになり、最近では、通信で紹介した支部の事例をもとにして、別の支部で同じような活動を始めたという嬉しい報告もいただきました。今では、通信の意義を日々実感しながら、編集に取り組んでいます。

で回っているかを図2のように考えました。

①まず支部に取材に行き、②支部の事例を探鳥会スタッフ通信に掲載します。③記事にすることで、事例が顕在化、資料化することになります。④通信が発行されることで、多くの支部に事例が伝わります。⑤その結果、支部から反響をいただきます。⑥財団は支部からの反響によって探鳥会リーダーのニーズを知ることができ、⑦ニーズに合わせた新連載を始めて、新たに取材や原稿の依頼をします。その後は、②新たな事例を通信に掲載し・・・というサイクルになっていきます。また、財団では探鳥会リーダーのニーズを知った結果を、新たな企画として、「会員を増やすための探鳥会」や「探鳥会リーダーズフォーラム」などを考えるきっかけとしても活かしています。

少しの情報をもとに支部に取材に行ったことから始まった探鳥会スタッフ通信。今では探鳥会スタッフ通信がまさに財団と支部のコミュニケーションツールとして機能していることを実感しています。

探鳥会スタッフ通信は、読者である探鳥会リーダーと探鳥会リーダーからのご感想、ご意見、事例の紹介があつての通信です。連載以外にも、支部の特徴だと思ふ取り組みや探鳥会での工夫点など、tancho-staff@wbsi.org まで、いつでもご連絡お待ちしております。

(普及室/堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2014年6月分）

6月は68支部からご報告をいただき、計232回の探鳥会が開催され、のべ4,450人が参加されました。

表1. 6月の探鳥会保険集計結果（2014年7月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	6	86	33	6	125
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	2	13	26	5	44
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	1	17	0	1	18
滝川支部	2	22	1	3	26
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	54	17	7	78
小樽支部	3	9	4	3	16
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	3	60	2	7	69
函館支部	-	-	-	-	-
道南桧山	1	6	2	2	10
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	3	16	7	3	26
秋田県支部	4	54	13	6	73
山形県支部	3	17	7	3	27
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	2	36	7	9	52
北上支部	1	6	0	2	8
宮城県支部	3	32	13	6	51
ふくしま	2	33	0	4	37
郡山支部	1	14	0	3	17
二本松	1	4	0	2	6
白河支部	2	12	0	2	14
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	7	52	40	10	102
栃木	-	-	-	-	-
群馬	7	63	15	15	93
吾妻	1	2	0	2	4
埼玉	5	80	25	32	137
千葉県	6	25	16	23	64
東京	9	214	5	42	261
奥多摩支部	11	141	25	40	206
神奈川支部	11	118	34	41	193
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	3	40	12	4	56
石川	2	25	0	5	30
福井県	1	13	3	1	17
長野支部	2	15	3	4	22
軽井沢支部	1	8	11	1	20
諏訪	2	6	22	4	32
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	1	7	15	2	24
甲府支部	1	32	4	2	38
富士山麓支部	1	5	9	3	17
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	16	1	4	21
南富士支部	2	70	22	4	96
南伊豆	1	11	2	2	15
静岡支部	4	25	2	4	31
遠江	3	50	15	10	75
愛知県支部	7	66	67	18	151
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	8	14	2	24
奈良支部	3	57	2	6	65
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	3	20	13	7	40
京都支部	5	91	54	10	155
大阪支部	22	289	62	93	444
ひょうご	6	83	119	21	223
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	44	16	3	63
島根県支部	1	12	1	1	14
岡山県支部	4	94	38	14	146
広島県支部	4	30	22	4	56
山口県支部	6	54	19	7	80
香川県支部	3	83	22	3	108
徳島県支部	5	50	6	5	61
高知支部	1	16	10	1	27
愛媛	3	37	19	6	62
北九州	4	39	0	4	43
福岡支部	7	102	17	14	133
筑豊	4	31	2	4	37
筑後支部	3	17	18	3	38
佐賀県支部	5	47	15	5	67
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	2	28	38	3	69
大分県支部	0	0	0	0	0
宮崎県支部	2	7	25	5	37
鹿児島	2	36	12	8	56
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	232	2,850	1,024	576	4,450

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会保険申請の締め切りは、毎月15日です■

探鳥会保険の申請の日は毎月15日必着です。締め切りを厳守してください。締め切りを

遅れると申請が間に合わなくなる可能性があります。

■平成26年度「探鳥会保険のご案内」をお送りいたします■

平成26年8月に探鳥会保険の契約を更新いたしました。これに合わせて、平成26年度版「探鳥会保険のご案内」を改訂しましたので支部事務局へお送りいたします。今回の改定では、

3ページ目(2)追加プラン◆補足6行目に、(傷害保険は適用されます。)という文言を追加いたしました。

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

◇世界の鳥類は10680種？

秋に新版を出すために、これまで参考文献としてきた『Checklist of the Birds of the World』スズメ目の最新版の刊行を待つのは諦めました。ウェブ上ではありますがIOC World Bird List (<http://www.worldbirdnames.org/>)の最新バージョン4.3が公開され、それを参考文献とし、印刷したものを保存することに致します。

増補版までは鳥類の種数は「世界的にみた場合、全種約8600種」でした。2007年の増補改訂版では上記の『Checklist』によって、「世界では204科2161属9721種となる・・・」としましたが、現在チェックしているIOC World Bird Listのバージョン4.2では238科2273属10680種になり、科で34科、種では959種も増えていることとなります。目録の変更によってこれまでウグイス科とされてきた種がクイタダキ科、ムシクイ科、センニュウ科、ヨシキリ科、セッカ科などに細分化されたとか、メボソムシクイの亜種が別種とみなされ3種になったなど、大変ではありますが、それは日本だけではないのです。

日本鳥類目録改定第7版で新たに掲載され、世界的にも注目されたオガサワラヒメミズナギドリを含むミズナギドリ科を例に、種数の変遷を見てください。30年前の原著から増補版までは「約60種」でした。増補改訂版では上記の『Checklist』により「74種」としました。春に新版を出す計画で参考文献にしていた、上記の『Checklist』非スズメ目の最新版では

「94種」でしたが、新版ではIOC World Bird List 最新バージョンの数字を記す予定です。

◇尾と尾羽は違う？

前回、漂鳥の用語解説を新版で改める考えを書きましたが、実は、尾と尾羽もかなり書き直しています。例えばシジュウカラガンの解説に「尾は黒く、上尾筒は白い」とあります。なぜ、ここを直さなくてはならないのでしょうか？

学問的に使われる用語でも100%正しいとは言いきれません。だからこそ、図鑑では「何を根拠にするか？」が明確にされているべきで、『フィールドガイド日本の野鳥』の用語は日本鳥学会の鳥類学用語集はもちろんですが、増補改訂版で参考文献に記した鳥類学辞典も参考に検討しています。そこでは尾について、上尾筒、下尾筒、尾羽から成るように記されています。つまり、「尾」を用いた場合には上尾筒が含まれ、シジュウカラガンの解説では「尾羽」は黒く、上尾筒は白いという表記が正しいこととなります。私もかつては「クジャクの尾は長いというのは間違い。目玉模様のついた長い羽は、尾でなくて上尾筒だ」などとえらそうに語っていたことがあります。が、上尾筒も含めて尾とするなら「尾は長い」は間違いとは言えません。

今も学術論文などで参考文献にされるだけの信用度がある『フィールドガイド日本の野鳥』です。発行が遅れた新版だけに、このような細部についても検討を続けてきました。

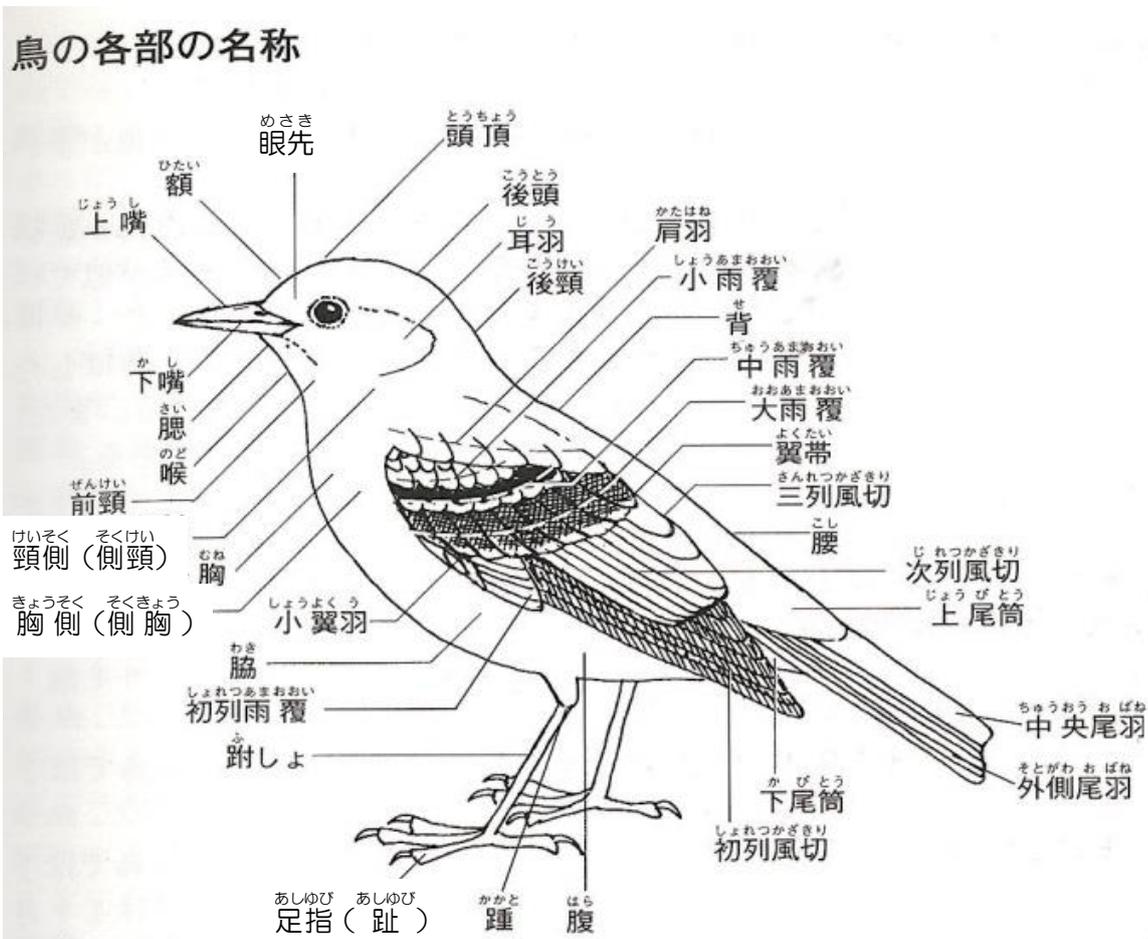
◇シロエリオオハムの首は青い？

増補改定版の参考文献の頁に「全国の支部報も参考にさせていただきました」と書いたように、分布や生息状況の確認にも、新たな情報を加えるか？修正するか？という判断をするためにも目を通させていただいています。

例えば、日本野鳥の会埼玉の「しらこぼと」8月号に榎本秀和さんが「シロエリオオハムの夏羽の前頸の色は、図鑑に記されているほどオオハムと違わないのではないか？」という主旨の投稿をされていました。実は、「高野さんが描いたシロエリオオハムの前頸は青すぎないか？」という指摘があり、直すべきか？悩み続

けてきました。この部分は光線の具合で見え方はさまざまなので、強いてオオハムと違いを強調して描かれた可能性もあります。高野作品を歴史的遺産として残すというミッションから、間違いと言えない限りは直さないという原則があり、微妙な課題だったのですが、8月4日、高野図版の微修正の最終日、谷口高司さんに僅かに色味を変えていただきました。榎本さんが投稿されたように、オオハムとの違いが微妙であることは間違いありません。図鑑としては、そこで簡単に識別できると誤解されるようではまずいとこの結論に至った次第です。

(普及室／安西英明)



▲線画の鳥は前号と同じですが、新版掲載予定のように各部の名称を変えてあります。

「尾」を削除したのは、前号のままだと「尾」とした場合には上下尾筒が含まれるという捉え方と矛盾するためです。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信8月号の電子メール版の購読者数は、先月から39名増えて781名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表2. 探鳥会スタッフ通信8月号電子メール版の購読者数（2014年8月21日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	1	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	5
道南松山	1	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	2
弘前支部	4	三重	3
秋田県支部	1	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	2	京都支部	131
北上支部	1	大阪支部	17
宮城県支部	38	ひょうご	5
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河	1	広島県支部	6
会津支部	2	山口県支部	2
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	1	徳島県支部	4
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	20	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	30	佐賀県支部	3
千葉県	15	長崎県支部	1
東京	44	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	10	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	1	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	781

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアド

レス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

残暑が厳しい中にも、朝夕の風や虫の音に秋の気配を感じられるようになりました。

今月号では、始めて約一年半になる探鳥会スタッフ通信の振り返りを載せています。これからも皆さんと一緒に通信を作っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

「マナー問題の事例」では、撮影マナーの問題を上手く解決できた事例を募集中です。事例をご存じの方は tancho-staff@wbsj.org まで教えてください。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第17号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2014年8月22日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
